

# 調査月報

## 【事務機器】 拡大するトナーカートリッジのリサイクル市場

トナーカートリッジのリサイクル市場が急拡大している。トナーカートリッジとは、インクの粉末や感光体等を詰めたカセットのことで、ここ数年、プリンタ向けを中心に、専門業者がユーザーからカートリッジを回収、トナーを再充填して販売するリサイクル品が広く出回っている。その出荷本数は、99 年の 209 万本から 2003 年の 427 万本へと年率 19.6% のピッチで増加、4 年間で倍以上に膨らんでいる（図）。

これには、企業間でプリンタの普及が進み、トナーカートリッジ全体の需要が増加したこともあるが、より基本的には、リサイクル品の割安感が認知されたことが大きい。リサイクル品は、新品に比べると、部品の消耗が進んでいる分、印字の鮮明度等では見劣りするが、カートリッジの製造コストがかからず、価格を新品の半額程度に抑えられる。企業のコスト削減意欲が高まるなか、リサイクル品の安さが幅広い支持を集めているわけである。

今後もこうした傾向に変わりはないと見られ、トナーカートリッジのリサイクル市場は拡大を続けよう。市場全体に占めるリサイクル品のウエイトは、現在の 2 割弱から、将来的には 3～4 割にまで高まるとの見方もある。もっとも、トナーカートリッジのリサイクル事業は、カートリッジの回収とトナーの再充填ができれば参入自体は可能とあって、新規参入の動きが後を絶たず、業者間競争の激化に伴って、リサイクル品の価格は早くも下落傾向を強めている。そ

うしたなかで、参入業者が他社との競争に打ち勝つには価格競争力の強化が不可欠で、逸早く販路を開拓して生産規模を拡大し、仕入・生産面でスケールメリットを享受するとともに、作業のパート化を進めるなど人件費負担の軽減を図ることが重要となつてこよう。その一方で、品質管理体制の強化も課題となろう。現状、リサイクル市場では品質管理が手薄な業者が少なくないが、最近では出荷前に厳格な商品検査を行ったり、必要に応じきめ細かく部品を交換するなど品質管理を強化する業者が現れている。各社が販売シェアを高めるには、品質への配慮も欠かせないものとなつてこよう。

注目されるトナーカートリッジのリサイクル市場であるが、参入各社には、価格の優位性を維持しつつ品質改善を図るという難しい舵取りが求められる。早晩、業者間の優勝劣敗が鮮明化してきそうだ。

（8.31 高橋 淳）

図：リサイクルカートリッジの出荷本数

